

●新刊のご案内

ケアを描く 育児と介護の現代小説 [4月上旬刊]

佐々木亜紀子 [愛知淑徳大学]・光石亜由美 [奈良大学]・米村みゆき [専修大学] =編

◎四六判並製 / 256 頁 / 本体 2000 円 / ISBN978-4-909544-05-6 C0095

育児や介護は、現代小説でどのように描かれているのか？

長らく家庭というとした領域で、主に女性によって担われてきた〈ケア〉労働。介護の外部化や男性の子育て参加など状況は大きく変わりつつあるものの、密室育児や介護施設での虐待など、依然として問題は山積しています。そのような、揺れるケアの現場を、フィクションはどのように描いているのでしょうか。小川洋子・多和田葉子・角田光代・三浦しをん・辻村深月・桐野夏生・金原ひとみなどを中心に、〈ケア〉というキーワードから現代小説に新しい光をあてる一冊です。

●主要目次

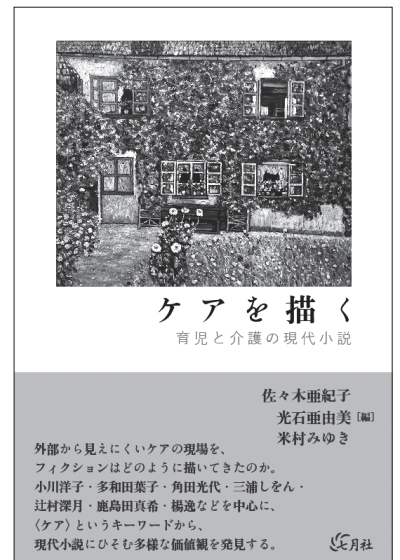
- I 育児をめぐる〈ケア小説〉——〈母〉と〈父〉の多様性
 〈母親になろう〉とする母子たちの物語——角田光代『八日目の蟬』
 ケア小説としての可能性——三浦しをん『まほろ駅前多田便利軒』
 弱さと幼さと未熟さと——辻村深月『君本家の誘拐』『冷たい校舎の時は止まる』
 家政婦が語るシングルマザー物語——小川洋子『博士の愛した数式』
- II 介護をめぐる〈ケア小説〉——高齢者・障がい者・外国人
 ケアと結婚と国際見合い——楊逸『ワンちゃん』『金魚生活』
 ディストピアの暗闇を照らす子ども——多和田葉子『献灯使』
 新しい幸福を発見する——鹿島田真希『冥土めぐり』

●コラムで扱われる作家・作品

桐野夏生『ハピネス』『ロンリネス』、堀江敏幸『なずな』、姫野カオルコ『謎の毒親』、小川洋子『ミーナの行進』『ことり』、村上春樹『1Q84』、温又柔『好去好来歌』、金原ひとみ『持たざる者』、水村美苗『母の遺産』、田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』、映画『万引き家族』、ドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』など

●版元より、書店の皆様へ

現代の作家が描く介護や育児の現場は、壮絶だったり、静かだったり、慈愛に満ちていたり様々ですが、その多様性は現代を生きる私達を映し出す鏡のようです。読者が、自分が体験してきたケアの他に、このような様々なケアのありようがあるのかと気づいてもらえるような本を目指しました。扱う作品が多いので、巻末の索引を「ケアを描いた小説」のブックガイドとしてもご利用いただけます。



株式会社 七月社

☎182-0015 東京都調布市八雲台 2-24-6 電話 / FAX : 042-455-1385

帳合・番線 注文数	発行：七月社 電話：042-455-1385
	佐々木亜紀子・光石亜由美・米村みゆき =編 ケアを描く 育児と介護の現代小説 冊 四六判並製 / 256 頁 / 本体 2000 円 / ISBN978-4-909544-05-6 C0095

ご注文は JRC へ / FAX 03-3294-2177

* 返品条件付き注文扱い
 * JRC 経由ですべての取次への出荷が可能です